

加茂名南学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分で考え、判断し、行動する児童を育成する授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長

【各校の取組状況の把握について】

外部講師や管理職、教員相互による授業参観、校内研修等、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能を身に付けようとする意欲が育ち、集中して学習に取り組んでいる。  ●当該学年で身に付けておくべき知識・技能が十分定着しておらず、学力の二極化も見られる。語彙数が少なく、問題を読み取る力や学習したことを言葉や文章で表現したり生活に生かしたりできる力の育成が課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・知識・技能の習得のために、適切に学習用具(ノート・ものさし・タブレット端末等)が活用できる。 ・読書を楽しみ、文章を正確に読み取ることができる。	・個に合わせて、ドリルやタブレット端末を活用して、基礎的・基本的な知識・技能が確実に身に付くようにする。 ・既習事項を用いて課題を解決する場面を増やす。 ・朝の活動の時間や隙間の時間を活用し、小テストや音読・読書タイムを実施し、基礎学力の定着を図る。	具体的方策を継続していく。	・どの学年も小テストや漢字テスト、フラッシュカード等を繰り返し行うことで、基礎的・基本的な事項の習熟を図ることができた。 ・基礎的な力は身に付いている児童が多いが、学力の二極化に課題がある。	・朝活の活用の仕方を進め、音読や読書タイム等を実施し、さらに基礎的内容の定着を図っていきたい。 ・授業中のタブレットの活用場面が増えつつあるが、ドリルやプリント、タブレット等個に応じた学習を選択する等、より効果的なものを考えていきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペア、グループ学習での話し合いでは、自分の考えを発言できる児童が増えてきた。  ●自分の考えを分かりやすく表現したり、まとめたりすることが苦手である。	・相手の話を最後まで聞くことができる。 ・話型や手引き等を活用し、目的に応じて、自分の考えと比較しながら聞いたり、自分の考えをまとめたり伝えたりすることができる。 ・一人一人が自信をもって、自分の考えを表現することができる。	・ペアトークやグループ学習を効果的に取り入れ、互いの考えを聴き合い、共有・交流できるような場面・時間を確保する。 ・児童同士の信頼関係づくり、認め合える仲間作りを行い、表現しやすい環境作りに努める。 ・児童が自信をもって表現できるように、ヒントカードを用いたり、言葉を補ったりする等、手立てを講じる。	具体的方策を継続していく。	・一人一人を見ていると、自分の意見や考えをもち、相手に話すこと、相手の話を聞くことやグループ内では発表ができていない児童が多い。しかし、まだ課題が残る児童もいる。 ・自分の考えを説明したり知識を活用して課題を解決することは苦手である児童が多い。	・児童にとって分かりやすい話し合いのモデルを提示する。聴く力を向上させ、最後まで相手の話を聴くことができるようにする。 ・話したくなる雰囲気づくりや失敗は悪くないと思える雰囲気作りを行い、自分の考えに自信をもてるようにする。 ・子どもの考えを深められる発問や指示を工夫し、子どもが考えを深められる授業づくりについて研修を行う。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○意欲的に学習し、与えられた課題に真面目に取り組む、自分の課題を伝えようとする児童が多い。  ●つまずくと最後まで取り組むことを諦めたり、受け身になったりする児童がいる。	・一人一人が毎時間の学習に目標をもち、積極的に授業に参加している。 ・「次はこんなことを学びたい。」という意欲をもって、授業や家庭学習に取り組む。	・前時のふり返りから本時の授業に繋げたり、体験活動やグループ活動を取り入れたりし、「わかる」授業を充実する。研修を行い、教員の授業力の向上を図る。 ・家庭学習の手引きや進め方を活用し、家庭と連携しながら家庭学習・読書活動の習慣化を図る。	具体的方策を継続していく。	・自主学習の手引きを作成し、活用したり、友達とノートを見せ合ったり工夫している児童を参考にしたりすることで、意欲を高め自主学習の内容の充実に繋げることができた。 ・図書室のスタンプラリーを活動することで、読書に意欲的な児童が増えた。	・毎時間のめあての明確化と学習の流れを示し、見通しがもてるようにする。 ・児童の個々の実態に合わせて家庭学習の内容や量を検討したり、家庭との連携を図ったりして、自ら進んで取り組む習慣が身に付くようにする。 ・「週末読書」を生かし、読書への意欲を高める。

令和6年度 学力向上ロードマップ

